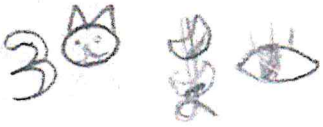
# すみれ学級通信（がっきゅうつうしん）『  』 題字：純華

№３５　令和４年９月２０日（火）　岩崎　秀幸

## 当たり前ではないこと

◆人間は環境に慣れる、順応するので、当たり前ではなかったことが当たり前に感じられることがよくあります。良くも悪くもそうなるのが普通です。

私自身、子どもの頃、親にご飯を作ってもらうのが当たり前でした。「いただきます」「ごちそうさまでした」は言っていたものの、毎日心を込めて言っていたかというとそうではなかったような気がします。今は、給食を食べることのできる環境にありがたいなあと思うこと、しきりです。

さて、他にも当たり前ではないことはたくさんあります。その１つがこども王国保安官（Ｈ１８設置、およそ１５年間活動中）の皆さんです。毎日のように定時に街頭見守りをしてくださっています。不審者事案が増えている最近は特にありがたく感じます。お仕事をされながらの方、高齢にもかかわらずされている方、そうでなくても自分の予定を見守りの時間帯に合わせてくださっている方ばかりです。私が子どもの頃はありませんでした。ひとえに子どもたちの安全確保のためです。子どもたちに次の話をしました。

①登校・集合時刻に間に合わない時「登校班の誰か」にその旨を伝える。
②前もって、「欠席」や「集合時刻に間に合わないこと」などが分かっていれば登校班の誰かに事前に伝える。
③登校見守りの前後の挨拶とお礼を頑張ること。

①、②で保安官の皆さんの負担が減ります。また、将来大きくなったときの報連相の仕方の基本が身に付くと思います。③を頑張ることで、挨拶と感謝の気持ちというコミュニケーションのもとのが育ち、将来いろいろな人に可愛がってもらえる人になるのではないかと思います。

高学年は周囲との関係性を深く考え始める時期です。そして観念的なものや目に見えない事柄も少しずつ理解し始めます。日頃我々が「普通」の生活ができるのも、知らないところで多くの人の支えがあることをこのような機会を捉えて伝えていきたいと思います。